

久々利及び周辺の行事と伝承

D-5 泳宮公園

西暦74年（景行4年）2月から11月まで、第12代景行天皇が行幸し滞在した仮宮殿跡と云われています。泳宮は市指定史跡に登録されていて、園内には、万葉歌碑、泳池、夫木集歌碑、フウの木（市指定天然記念物）、大日堂祠、轆轤蔵、史跡案内、絵馬掛け処があります。

ここは、山車の虫干しや山車祭りの拠点であり、まち歩きや恋（鯉）の聖地行事の拠点でもあります。



D-4 久々利八幡神社と大祭

創建不詳ですが、神輿には1282年、本殿の棟札には1356年再興の記録があります。三間流造の本殿は県重要文化財、六角神輿（1493年製作）は県重要有形民俗文化財に指定されています。

山車2台が巡行し、からくり人形が演じられるのが特徴の「八幡神社大祭」は、市重要無形民俗文化財に指定されています。この祭礼形式は、初めは馬5疋を出し流鏝馬を行っていましたが、1668年より山車を引回す形式に変わりました。



C-5 熊野神社大祭(直会祭り)

創建不詳ですが、1624年の棟札と1659年再興の棟札があります。

御神酒、赤飯、茅巻餅を神前に献じ、一同直会し、田植え歌を唱っていましたが、現在は継承されていません。



各神社 季節神事などが伝わる祭礼

- 大平 神明神社と加藤景豊之碑の神事が残り、境内で提灯祭りの風習もあります。
- 丸山 白山神社は祭り神事の別日8月に風祈禱の風習が残ります。
- 羽崎 おちよぼ稲荷神社は、38年間の洞窟祭り廃止後も、初午祭が残ります。
- 羽崎・二野 舞台を備える神社が主ですが、各社の地歌舞伎は廃れました。



各神社とも年数回の神事が残ります。各地区の燈明の風習も少なくなりました。

C-6 名古屋街道

千村家が名古屋屋敷に通った道です。景行天皇の久々利行幸に使ったという伝承もあり県道83号線沿いに名古屋に至ります。



F-5 信長街道

奥磯・碓ヶ谷林道、大平を通り信長が武田氏に勝利し金山城に一泊、岡本山で土岐氏に能宴席のもてなしを受けて帰途した道の旧名が、信長街道です。信長の朱印状（許し）で開いた大平窯と大萱窯の往来道としても使われました。



F-4 氷場跡

明治時代から製氷場がありましたが、昭和24年に小淵ダム建造により水没してしまいましたが、渇水期には面影を見ることが出来ます。



久々利及び周辺の史跡と墳墓

C-5 C-3 国内最大級の地下工場跡 立入禁止

大戦末期の航空工場疎開による三菱重工業柿下地下工場跡は、田地山から伊勢山に至り、平牧地下工場跡は天ヶ峰に残っています。



D-5 西山謙之介碑

若き勤王の志士、西山謙之介は、千村家当主を守る中小姓に抜擢されるも職を辞し、江戸で銃剣や国学を学び、勤王思想の志高く、倒幕挙兵に至るも、栃木で銃弾に倒れました。その慰霊碑が小坂山の頂きにあります。



D-4 千村陣屋跡と下屋敷跡

石垣のみが残る陣屋跡には、久々利保育園、久々利地区センター、可児郷土歴史館が建ち、地区の拠点となっています。下屋敷は道路で分断も、回遊式春秋園、木曾古文書館やかつての久々利小学校跡地になっています。



B-5 日本最大級久々利銅鐸

可児自動車学校のある番場で発掘された弥生期の銅鐸で、当時この地で大きな農耕祭事があったことが伺えます。銅鐸は可児郷土歴史館に展示中です。



B-5 C-3 C-4 横穴墓群

古墳時代の6~7世紀に造られたといわれています。久々利川水系には、現在106基の横穴墓が確認されていますが、かつては150基以上存在したようです。そのうち、久々利・柿下地区には50基が確認されています。



A-4 不孝寺塚古墳 県指定史跡

6世紀後半の直径16m程の円墳が、約11m幅、高さ4m程残ります。内部は2室の横穴式石室で、サバ岩石を削った家形の石棺があります。



A-3 羽崎中洞古墳 県指定史跡

市内最大の横穴墳です。6世紀後半の長さ2.7m幅1.4m高さ0.7mの縄掛突起を持つ家形石棺があり、この地の長の墓と言われています。土師器・須恵器・人骨が出土しました。



B-5 二野鍋煎古墳 県指定史跡

6世紀後半の3基構造の横穴墓で、入口の幅1.8m長さ1.7m高さ1.65m。棺室は幅・長さ・高さ共に入口の倍の広さで、他2基は若干小型です。



B-3 羽崎寺洞古墳

羽生ヶ丘3丁目の公園内に数十メートル離れて、2基の直径10m程の円墳の石積み遺構が残ります。

